

2000年鳥取県西部地震の余震に関するb値およびp値の空間分布と主震の破壊過程の関連

Spatial var. in b and p val. for the aftershocks of the 2000 Tottori eq. and its relation to the source process of the mainshock

Bogdan Enescu[1], 伊藤 潔[2]

Bogdan Enescu[1], Kiyoshi Ito[2]

[1] 京大・防災研・地震予知セ, [2] 京大・防災研

[1] RCEP, DPRI, Kyoto Univ., [2] Disas. prev. Res. Inst, Kyoto Univ.

2000年鳥取県西部地震の主震後4ヶ月間の余震5000個以上について、マグニチュード頻度分布のb値および改良大森公式のp値について、その時間および空間分布の変化を調査した。データとしては、気象庁と京都大学防災研究所の震源カタログを用いた。結果として、空間的な変化は有意であったが、時間的な変化は見出せなかった。大きいb値は主震の断層の大きな滑りに対応するようである。